

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス プレミアム荒江		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 20日		～ 2025年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 15日		～ 2025年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心安全な利用	安全に関する研修や訓練の実施は全職員対象に行っている。避難訓練は(地震、不審者、水害、火災)全利用者対象に行っている。ニュースとなった事件や事故を確認し、職員間で共有そして研修として考える時間を作っている。避難訓練だけではなく、こどもの安全確保を第一に意識している。	緊急連絡を使用し、訓練を行っていききたい。訓練の様子をお便り等で発信を行う。現状行っているがまだ周知が足りない。送迎時等で訓練の様子もしっかり伝えていききたい。安全計画に沿って支援はもちろん「安全チェックリスト」に基づき設備・玩具等の安全確認を行っている。
2	保護者との連携	送迎時等日頃から保護者より相談を受けたり事業所での活動の様子について話し、情報の共有に努めている。面談だけではなく、連絡帳・電話・メールを通してこどもの現状と保護者の想いを丁寧に共有するように心がけている。療育という教育施設ではあるがサービス業の一環として保護者から信頼を得る事ができるようニーズの把握や問題発生時の対応についてしっかりと行っている。事業所で気が付いたことは速やかに保護者へ共有することを心がけている。	送迎の急な変更、予定とは異なった場合でも柔軟に対応できるように職員間、保護者としっかりと連携出来るよう情報共有を行っていききたい。毎日の丁寧な対応、真摯に向き合った対応を心がけ保護者、利用者に向き合っていく。感謝の気持ちを忘れずに保護者の期待に答えていききたい。
3	利用児の特性に応じた支援、適切な支援の提供	・職員全員が利用のこどもたちの特性を理解し、すべてのこどもたちの支援に関わることが出来るように取り組んでいる。こどもに関する情報共有の場を作り、支援の一貫を図る体制を整えている。興味や強みを大切にしながら自立を目指した課題への取り組みを行っている。こどもが楽しみや遊びの中で学び、成長していけるように活動内容の工夫、そしてトリプルプログラムを考案し提供している。	社内での研修を充実化を図り、職員の知識や支援力を高め実践に活かしていく。こどもにとっての最善とは何かを考えながら、児童発達支援管理責任者の指導の下、よりよい支援が出来るように職員間で話し合いを進めていく。支援の振り返りと改善を充実させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流(地域の他のこどもと交流する機会)	他のこどもたち限定とした交流が出来るような機会がない。交流に目的や目標をしっかりと設定し、こどもたちの特性に十分に配慮した交流の機会を提供する事が重要と考えている。保護者は望んでいるのか検討する必要があると考えている。	こどもたちに必要な機会は同じ年代のこどもたちだけではなく、様々な世代の地域の方々との交流が大切だと思っている。こどもたちが一緒に楽しく活動できる機会を計画し提供出来るよう取り組んでいく。地域のイベントや活動に参加し、地域の方々との交流の機会を増やす。
2	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会の開催	様々な特性のこどもたちが利用されている。課題も様々であるため。一律的なペアレント・トレーニングを実施することが効果的か、必要なか、保護者は望んでいるのか検討する必要があると考えている。	必要な情報は保護者会等を通して伝えながらこどもの課題、支援については送迎時、メール電話等で情報共有を行っている。必要に応じて面談の場を設け課題に合わせた情報提供やアドバイス等を行っていききたい。
3	きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなどの、きょうだいへの支援	保護者は望んでいるのか検討する必要があると考えている。	保護者の意見、要望を取り入れながら検討していききたい。